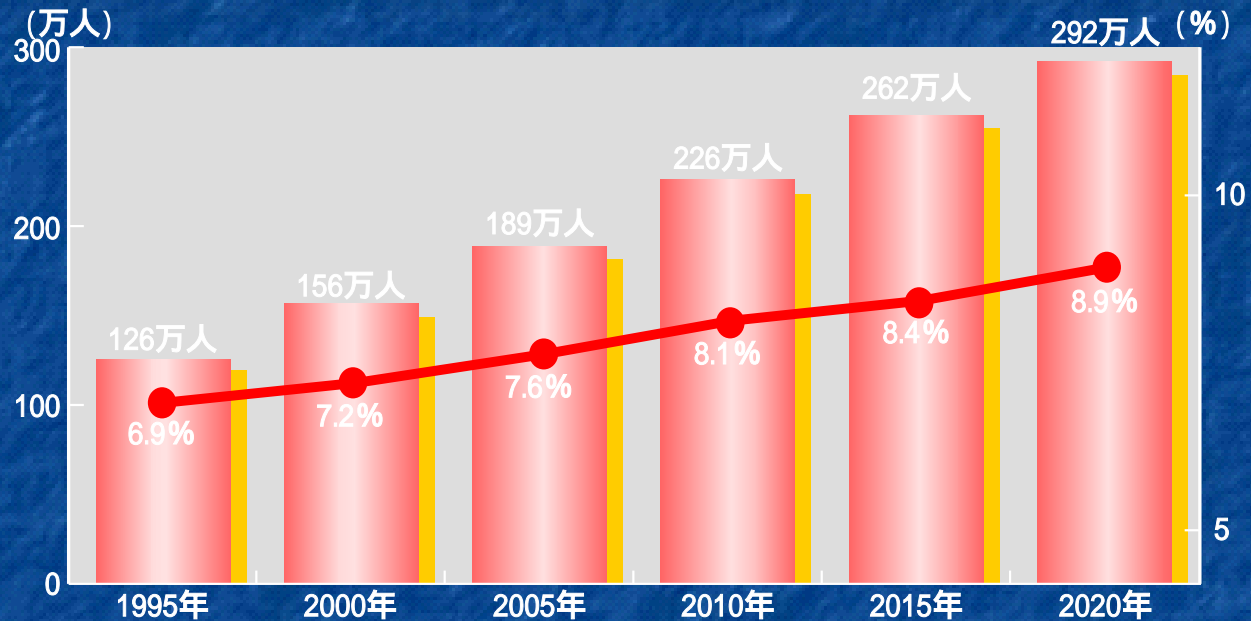


65歳以上の高齢者 (2005年9月15日現在の推計)

- **2,556万人**(昨年2,484万人:72万人増)
- 1億2765万人に占める割合は**20.0%**
昨年は19.5%・・・10年後には26%の見込み
- 男性1,081万人(昨年より32万人増)
…………男性全体の17.4%
- 女性1,475万人(昨年より40万人増)
…………女性全体の22.5%
- 高齢者世帯は35%以上(3軒に1軒以上)

出現率：65歳以上の13人に1人

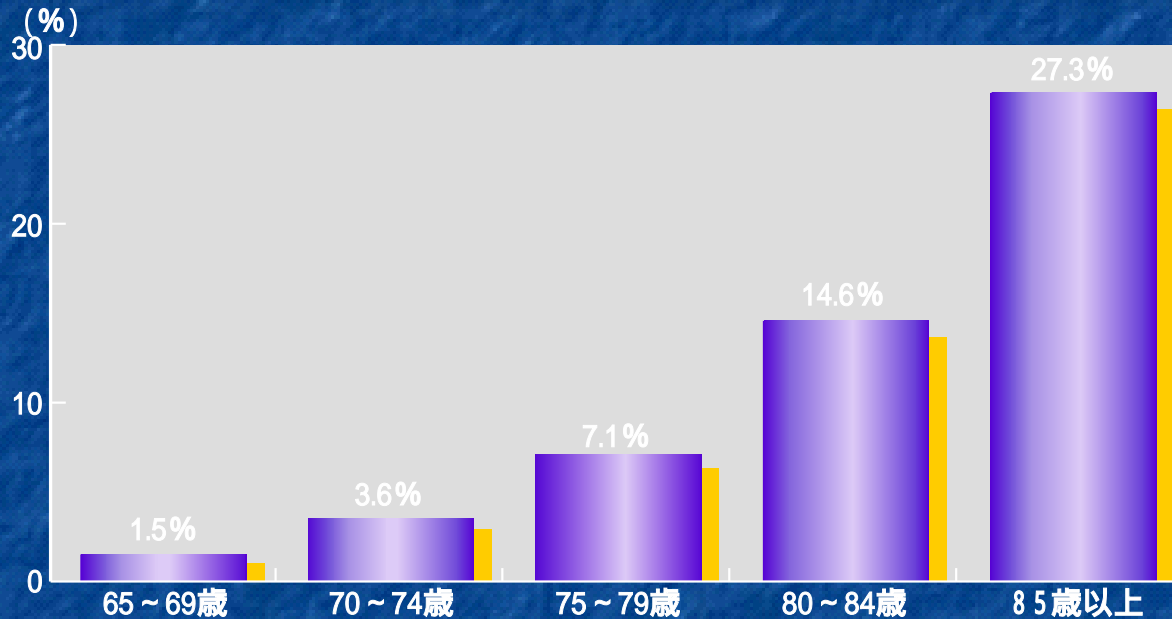
認知症高齢者の将来推計



折れ線は65歳以上の老人人口に対する痴呆性老人の出現率
「1994年、痴呆性老人対策に関する検討会報告」厚生省

出現率：85歳以上の4人に1人。

認知症高齢者(65歳以上)の年齢区分別出現率



「老人保健福祉計画策定に当たっての
痴呆老人の把握方法等について」
平成4年2月老計第29号、老健14号

生理的老化と認知症の相違

- 一部分のものの忘れ
- 自覚がある
- 進行しない
- 見当識は保たれる
- 行動上の問題はない
- 生活に支障はない
- 体験全体のものの忘れ
- 自覚がない
- 進行性で悪化する
- 見当識障害の出現
- 行動・心理症状の出現
- 生活に支障をきたす

脳血管性認知症の症状と経過

- (原因)

脳梗塞や脳卒中が原因で起こる

- (症状と経過)

急激な発症

(発作後に発症する)

まだら上の症状

(低下している部分としっかりしている部分が混在)

階段状の進行

(再発作のたびに進行)

アルツハイマー型認知症の 症状と経過

- (原因)

脳の萎縮性の認知症で原因は不明

- (症状と経過)

緩慢な発症

(ゆっくりと発症する)

全般性の症状

(もの忘れを中心とした全般性の認知機能障害)

ゆっくりと確実に進行

(スロープを降るように進行する)

認知症の進行の段階 - 健忘期

- もの忘れがひどくなる
- 体験をそっくり忘れる
- 同じことを何回もたずねる
- 簡単な物や人の名前が思い出せない
- 会話に代名詞が増える
- 簡単な計算ができなくなる
- 作話がでてくる

認知症の進行の段階 - 混乱期

- 判断力が低下し混乱する
- 勘違いや妄想が起こってくる
- 時間・場所・人などの見当識障害がおこる
- 徘徊などの行動・心理症状がおこる
- 過去と現在の区別がつかなくなる

認知症の進行の段階 - 終末期

- 家族のことや自分の名前がわからなくなる
- 言われたことをほとんど理解できなくなる
- 発語は意味のない単語の羅列になる
- 尿失禁や便失禁がおこる
- 常にケアが必要となる
- 体力が低下し、感染症にかかりやすくなる

認知症の人のケアの原則

1. **喪失機能と残存機能の評価**
(何ができて何ができなくなったのかを正しく知る)
2. **回復可能な機能の回復努力**
(回復できる可能性のあるものは試してみる)
3. **喪失機能を使用する機会を減らす**
(できなくなったことはやらせないようにする)
4. **残存機能を最大限に活用する**
(できることはなるべくやってもらう)

認知症の人の日常生活の援助

- 残存機能の発見と活用
…………… できることは積極的にやってもらう
- できない部分だけへの援助
…………… 自立支援のための援助という視点
- 成功体験の蓄積
…………… 喪失した自信の回復
- 失敗体験の回避
…………… 自信を失うことがないように配慮

認知症の人に何が起こっていて どう対処すればいいのか

- **もの忘れ** (直前のもの忘れが起こる)
 - もの忘れを責めず、根気よく対応する -
- **見当識の障害** (時間・場所・人物がわからなくなる)
 - 生活リズムを確立し、環境を整備する -
- **思考力や判断力の障害** (思考の連続性がなくなる)
 - 情報を簡潔化し、判断の材料を増やさない -

認知症の一次要因と二次要因

- 認知症の一次要因

脳の萎縮や脳梗塞などによる脳細胞の死滅など、脳の障害による要因。もの忘れや見当識障害の原因となる。

- 認知症の二次要因

認知症高齢者の心理的・社会的・環境的要因。徘徊や妄想などの原因の一つとなる。

認知症の症状の変化

- 一次要因の改善

改善させることは難しいが、近年薬物によって進行を遅らせることは可能になってきた。

- 二次要因の改善

不安やストレスの除去、家族関係の調整、環境の調整などによってさまざまな症状を抑えていくことは可能。二次要因の改善がケアの目標となる。

認知症ケアの目標

1. 二次要因の改善をはかる
2. 不適応状態を適応状態に変化させる
3. 自立への援助を考える
4. 本人が安心できる生活を提供する
5. 生活の質の向上をケアの目標とする